

# 第10回 年少者日本語教育研究フォーラム

【日時】2020年9月27日(日)13:00~18:00

【方法】Zoomによるウェブ公開。参加費は無料。

【参加方法】参加希望者は、9月25日までに以下のメールアドレスに、  
お名前、ご所属、メールアドレスを添えて、メールで参加申し込みをしてください。  
Zoom情報を9月26日に個別にお知らせいたします。当日の参加はできません。

<事前の参加申し込み先> wanikko@list.waseda.jp

【定員】定員30名。定員になり次第、締め切らせていただきます。

【主催】「移動する子ども」フォーラム・早稲田こども日本語研究会

【プログラム】



	時間	内容
	13:00-13:10	「ようこそ！」 川上 郁雄 (早稲田大学大学院教授)
		発表 20分 + 質疑応答 15分
研究発表 I	13:10-13:45	複言語・複文化環境で育った父は自分の経験をどのように息子の家庭教育に活かしたか—在日日系ブラジル人二世のライフストーリー— 加納雅美 (早稲田大学大学院日本語教育研究科 修士課程修了) 本研究では、日系ブラジル人二世、タカハシさん (仮名) のライフストーリーを、ことばと家庭教育の視点から考察した。タカハシさんは複言語・複文化環境で生きてきた経験から、自らのことばや家庭教育に対しどのような認識を持っているか、また、その経験を、自身の子どもの家庭教育実践で、どのように活かしたかを明らかにした。さらに、タカハシさんは、息子を中心とした生活を通じ、日本社会とのかかわりを変容させたことが考察された。
	13:45-14:20	「個の教育ニーズ」の構造から「ことばの力」を捉え直す—年少者日本語教育の視点から— 溝口 明 (早稲田大学大学院日本語教育研究科 修士課程修了) 年少者日本語教育において「個の教育ニーズ」をいかに理解すべきか。本発表では、約1年間の小学校における日本語教育実践を、「個の教育ニーズ」という視点から振り返る。そして、実践者の教育観の変容と、実践のなかで「個の教育ニーズ」が生み出される過程を明らかにする。最後に、「個の教育ニーズ」の構造を理解した上で、改めて年少者日本語教育の実践者が育成すべき「ことばの力」とは何か、明らかにする。
	14:20-14:55	外国につながる子ども達の大学進学の原因—早稲田生へのインタビューを通して— 七海美和子 (早稲田大学大学院日本語教育研究科 修士課程) 大学4年次に、早稲田大学に進学した外国につながる子どもだった人達を対象として、彼らの大学進学の原因に関する研究を行い、卒業論文としてまとめた。半構造化インタビューを行った結果を言語能力・学校生活・進路選択・家庭環境の4つの観点から分析を行った。その結果、共通点として、保護者・本人ともに高い日本語能力を有している点、大学進学が自明視されていた点などが挙げられる。一方、相違点として母語の言語能力が多様である点などが分かった。
		休憩 (5分)
研究発表 II	15:00-15:35	「移動する子ども」だった学生のアイデンティティ形成過程—中国にルーツを持つ3人のライフストーリーをもとに— 太田真実 (大阪大学大学院言語文化研究科 博士後期課程) 本研究では、中国にルーツを持つ3人の「移動する子ども」だった学生がどのような場面において自らのエスニシティを意識し、アイデンティティを形成してきたのかを明らかにした。本発表では、「移動」とアイデンティティの関係に着目しながら、かれらのアイデンティティ形成について論じる。3者ともに幼少期は両親に連れられ日本に来ることになった、いわば「移動させられた子ども」だったのが、進学や留学を契機に自らの意思で移動することを決めたことに着目し分析・考察する。

<b>研究 発表 Ⅱ</b>	15 : 35-16 : 10	<p>広東語母語話者 JSL 高校生にとって日本語を学ぶ意味—広東語母語話者支援者が寄り添うことによる考察 張楚（早稲田大学大学院日本語教育研究科 修士課程修了）</p> <p>複数言語で育った背景と複数言語環境を移動した経験を有する広東語母語話者の筆者が、母語話者支援者とロールモデルの二重身分を担いながら、日本語教育支援の場では出会った二人の広東語母語話者 JSL 高校生と 1 年余りの寄り添い合いに基づいた事例研究を紹介する。主に、筆者の幼少期から複数言語で育った経験を踏まえ、ことばが「個」の発達、人格形成、学習の主体性、社会において人的ネットワークの構築にどのような影響を与えているかという関心を元に、二人の JSL 高校生が中国、日本の移動に伴う複数言語使用と自らの複数言語使用意識を究明した。</p>
------------------------	-----------------	--

休憩（10分）

「移動」を経験した私たちだから、言いたい！ ①調査発表 と ②映画上映		
<b>特別 企画</b>	16 : 20-17 : 50	<p>① Listen to the Voices of Cross Culture Kids スミス理紗、張元恵、吉野春香（都立国際高校 在校生）</p> <p>私たちは、帰国子女や在京外国人として日本での生活に慣れるのに苦労しました。そこで、多文化を経験した人が早く日本に馴染む支援するために Platypus を立ち上げました。これまで帰国・在京外国人生徒や高校の先生にインタビューしたり、多文化を経験したことのない人と交流して解決策を探ってきました。この度は皆さまとディスカッションをすることで日本の現状を理解し、改善すべき点を見つけたいです。</p> <p>② 自作映画「向陽而生-私らしく生きること」上映（42分） 脚本・撮影・制作： にじいろ探検隊*</p> <p>日本に来るのが「宿命」だとしたら、この先は「自らの運命」をひらいていきたい。</p> <p>*にじいろ探検隊：2017年12月、「横浜市中区・外国人中学生支援教室」（主催：なか国際交流ラウンジ）の卒業生たちが主体となり結成した団体。居場所「Rainbow スペース」の企画、運営、さまざまな自己表現、地域貢献活動を行なっている。本作品は、来日後の思い、親との絆、仲間との学び合いを通じて、複数の言語文化間を生きる自分たちの「ライフ」と向き合い、自分らしい生き方を見つけようと動き出した物語。</p> <p>①②のあと、意見交流</p>
	17 : 50	「また来年会いましょう」 池上摩希子（早稲田大学大学院教授）

\*みなさまのご参加をお待ちしております。

なお、フォーラムの終了後、「交流会」を同じ Zoom で開催します。時間のある方は引き続きご参加下さい。

終了時刻：19：00

